

松本 哉 MATSUMOTO Hajime

# 世の中、働かないに越したことはない!



リサイクルショップ「素人の乱」5号店 東京・高円寺

ものを大事にする」ついでに、ことは、まあ納得のいくことだ。半分遊びながら店をやつて、友達もどんどんどできるし、そのドサクサまぎれに世のためにもなつたりする! おお、こりゃいいね! まさに、ストレスゼロだ!!

ところが! ちょっと周りを見渡してみると、仕事でストレスを感じたり、苦勞して人つてやたらたくさんいる。うちの店でも、夜遅くにぐったりして「仕事がつらいんですよ!」などと愚痴を言ひ出す人もいるし、夜逃げの手伝いをお願いされたことだつてある(一)。事情は知らないが、とにかく大変なことは確かだ!

職場の人間関係だったり、ムチャな業務内容だったり、いろいろあるんだろうが、話を聞いていると、むやみに「ちゃんと働かないと!」ついでに「レッシュャーを強く感じているみたいだ。でも、そんなに、みんながみんな働かなくていいじゃないもんならどうか……」

り作っているその産業自体は、立派じゃないどころか世の中にとって迷惑なくらいだ。じゃあ、働け働けて言うけど、仕事ついでにいったい何なんだよ!!

よくよく考えてみると、仕事ついでに、本当は自分たちが生きていく世の中を何とかまわしていくための業務のこと。別に始めから仕事つてのがあるわけじゃない。趣味と一体化している場合は別だが、本来は仕事なんてなきゃいいほうがいいものなのだ。うーん、確かによくよく考えたら、経済や技術も発展してきた豊かになつてきてるはずなのに、その結果は仕事が増えただけじゃねえか!

しまった、だまされた。なんだ、だんだん腹立つてきたぞ、コンチクショウ!!! ご飯を食べるために食器を作つたり、あまりにも暑いから扇風機やエアコンを作つたり……、と、世の中は進歩してきた。その一方で、仕事を作るための仕事のような謎のIT企業なんか増殖しまくつたり、よくわからない方向に行くことも多い! まったく、仕事が増えるから変なものを出さないでほしいね。年度末の公共工事だつてそうだし、買い替えさせるためだけにモデルチェンジした新製品だつたり、もう人の総仕事時間を増やしてるとしか思えないぞ! いやがらせか!

り、「することないから占いでもやろうかな」と、路上に机を出して商売し始めたやつまでいて、これが不思議なことだ。繁盛してたりする。アクセサリーなんかを作つてフリマで売つたりもする。ヒドいやつなんか古着のゼロ円ショップ(ようするに無料配布!)なんかをやり始めて、メシにありついたりしていたやつまでいた(残念ながら「儲からない」といつかはやめていく)。で、人が増えてくると、こんどは晩飯を大量に作つて売り歩く人が出てきたり……。なんだか知らないが、何とかなつてる。もちろん、こういう連中は、どこにいつてもいる。とりあえず、自分のやりたいようにやつてのほうがいいね!

仕事、仕事つてひとくくりで言うけど、いまやつていいる仕事かどうかつてことが一番大事だつてことかもしれない。いや、うーん、そう考えたら今の世の中つて、ろくな仕事がないのかもしれない。

結局のところ、いまの世の中、金持ち連中が貧乏人を集めて働かせて金もうけしているような職場が多すぎる。こういう連中が仕事増やしてるんだよな。うーん、そんなことが「働く」ことだつたら、まっぴら御免だね……。つてことで、いまの若い連中なんかは働かぬぞ! ついでに「ワラワラよ!」つて反応して、ワラワラと集まってくるに違いない。よし、やめたやめた! こころなつたら働くのをやめよう!!

私は学生時代から詩が好きで、十ほどの作品を誦んじることができた。グレアム・グリーン『事件の核心』に、詩が好きで男ウイロンが登場するが、彼は詩を「葉のようにこつそりのみくです」。詩が心を慰め、温め、奮い立たせるのだ! 一編の詩も暗唱できない人生なんて、花の咲かない木のようなものだ。そうは思わないか。現在、詩集は読まれぬ著作物の代表のように言われているが、詩に力がなくなつたのか。詩を求める力が絶えてしまったのか! ところが、本年二月十四日、目の覚めるような詩集が出た。金子彰子詩集『二月十四日』だ。表題作は昭和六十年にチヨコレイト会社による「パレインタインデー」詩の懸賞で特別賞を受賞した。まだ十五歳だった。へいわし焼く夕方「焼き方が足りんぞ」/その一言に堰がぎれ/とめどなく鳴咽漏らす/と意表をつく書き出しの失恋詩! 選者の井坂洋子に絶賛された彼女は、翌年に数編を発表したのを最後に、詩を書かなくなった。橋の下を多くの水が流れ、四十に手が届こうというある日、奇跡的なできごとがあり、再び詩を書き始める。金沢の自称「自営零細の書籍編集発行所」龜鳴屋が、その「奇跡」のバトンを受け継いで、詩集『二月十四日』の発行元となった! 『二

篇の詩がそんな力をもつことがあるらしい。その詩や、金子彰子という詩人の運命を感じずにはいられない!』と、同著の解説で井坂洋子は四半世紀ぶりに大人になった少女を励ました。詩には人を動かす力がある。そのことをあらためて感じさせるべきことだつた。(野)

京は高円寺駅前のトラックの荷台のステージ上に立ち「働かぬぞ! は、た、ら、か、ね、え、ぞ!」ついでに、コールを連呼! で、集まった数百人の大アホな若い奴らの群衆からも「は、た、ら、か、ね、え、ぞ!」の轟きもなないレスポンス! たまたま通りがかった奴らも「なんだなんだ!」と、集まってくる! おお、高円寺駅前がまさに大パニックに!!

この光景、何かというと、ちょうど3年ほど前に行ったゲリライベント「高円寺一揆」いや、働かぬぞの一言であれだけ盛り上がるなんて聞いたことないね! いや、これは最高だつたね! まさに祭。

まあ、そうはいいつつ、自分はその高円寺の街でリサイクルショップをやっている。「働かぬぞ」どころか、この仕事は性に合つてるのか、楽しいので毎日のように店に出ている。「お、い、言、ひ、て、る、こ、と、が、全、然、違、う、じ、ゃ

り作っているその産業自体は、立派じゃないどころか世の中にとって迷惑なくらいだ。じゃあ、働け働けて言うけど、仕事ついでにいったい何なんだよ!!

## 愛 書 狂

り作っているその産業自体は、立派じゃないどころか世の中にとって迷惑なくらいだ。じゃあ、働け働けて言うけど、仕事ついでにいったい何なんだよ!!



# サッカーが勝ち取った自由 アパルトヘイトと闘った刑務所の男たち

チャック・コール、マービン・クローズ [著] ISBN978-4-560-08064-1



南アフリカ大会が間もなく始まる。アフリカ大陸では初めての開催となる。なぜ南アフリカなのか？ かつてはアパルトヘイト政策のために参加できなかったこの国で開催されることに大きな意義がある。本書は、その意義を伝える真実の物語。ケープタウン近くの海上

## 南アフリカ・サッカーの知られざる実話

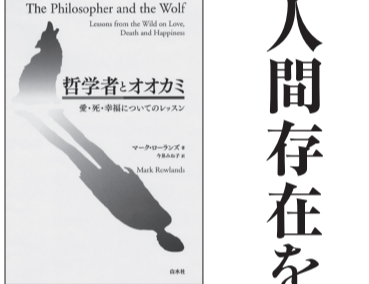
にあるロベン島。アパルトヘイト時代に、ネルソン・マンデラをはじめ何千人もの政治囚が島内の刑務所に収容された。虐待と労働の日々の中で、受刑者たちはサッカーを丸めて縛ったボールを蹴りあう遊びを始め、収容棟はしだいに活気づいた。彼らは本格的にサッカーを行うことを望み、団結して刑務所に要求し続け、ついに許可を得る。それが権利獲得の第一歩だった。チーム結成後、リーグ戦を開始。サッカー協会を設立して審判委員会まで発足させた。受刑者たちは身体を鍛え、戦術

を練り、組織づくりや交渉能力を身につけていった。いつか自分たちの闘いが南アフリカに自由をもたらすと信じて、苦しい獄中生活を生き延びたのだ。番号で呼ばれる存在でしかなかった受刑者たちは、サッカーによって自尊心を取り戻し、名前のある一人の人間として認められるようになっていく。後に彼らは新生南アフリカをつくり、運営する重要なプレイヤーとなる。現在の南アフリカ大統領ジエイク・ズマも、その一人だ。南アフリカの人々にとって、サッカーは自由と人権を勝ち取るために重要な意義を持っていた。

◇実川元子訳 四六判 二九三頁 定価二〇〇〇円 (本体二〇〇〇円) 5月中旬刊

## 哲学者とオオカミ 愛・死・幸福についてのレッスン

マーク・ローランズ [著] ISBN978-4-560-08056-6



本書は大学で現代哲学を講じる気鋭の哲学者が、一匹のオオカミとの出会いからその死を看取るまでのユニークな知的読物である。その魅力の第一は、もちろん、ブレニンと名付けられたこのオオカミとの共同生活に見られる「野生」の輝きである。ヒトやイヌに対するブレニンの意外な反応

## 人間存在を揺さぶる

やエピソードの数々は、オオカミに対する偏見を洗い落すに違いない。また野生のブレニンの訓練法は、飼い犬に手こずる読者には大いに参考になろう。

が、本書の更なる魅力は、著者がこの共同生活から人間という存在の根本問題——死とは何か、愛、幸福とは何かの思索を深めてゆき、ニーチェやクンデラとともに従来の人間観を克明に検証してゆく論述過程にある。利益を計算し、ときには仲間を欺く「邪悪性」、この内なるサル性を暴くくだりや、永遠と瞬間をめぐる思索は、並のミス터리や哲学書よりはるかに刺激的だ。この「哲学と野生との対話」から浮かび上がるのは人間存在の新たな在り方であり、読者は自らの生について再考を迫られるに違いない。

世界的なベストセラーとなった前著(邦訳「哲学の冒険」筒井康隆監修)とならんで、本書も各紙誌から「驚異的な本だ。あまりに魅了され、本を手離すことができない」「人間についての見方を検討し直させる画期的な本」と絶賛されている。文体は一般向けで、読みやすい。確実に読者を「揺さぶる」だろう。

◇今泉みね子訳 四六判 二七六頁 定価二五二〇円 (本体二四〇〇円)

## 白水社の復刊書目

5月下旬刊

◎表示価格には5%の消費税が含まれています。

航海の世界史  
ヘルマン・シュライバー 杉浦健之訳  
6300円 A5変型/三九六頁 ISBN978-4-560-08074-0 最終版1977年

音楽における偉大さ  
アルフレート・アインシュタイン 浅井真男訳  
4725円 四六判/三〇六頁 ISBN978-4-560-08075-7 最終版1978年

美学入門  
ジャン・パウル 古見日嘉訳  
8400円 A5判/六七四頁 ISBN978-4-560-08076-4 最終版1985年

アルザスの言語戦争  
ウージェーヌ・フリリップス 宇京頼三訳  
4410円 四六判/三三八頁 ISBN978-4-560-08077-1 最終版1999年

童子考  
郡司正勝  
3780円 四六判/一八九頁 ISBN978-4-560-08078-8 最終版1985年

五十年にわたる船と冒険の歴史。エジプト人、フェニキア人の舟から原子力船に至る航海の歴史を、船の構造の変化や、民族・大陸間の関係をおりませ、詳細な資料を背景に概観する。

芸術を正當に評価するには、しばしば時代と国境が障害となる。では音楽の場合は？ 高名な物理学者を従兄にもつ音楽史家が、歴史的な観点から考察する、大作曲家たちの「偉大さ」。

空想力、天才、ユモア、アイロニー、ギリシア文学、ローマンの文学、文体、ドイツ語、文学ジャンル……多彩なテーマについて、自身の創作活動に照らしながら縦横無尽に論じた研究的著作。

ヨロップ文明の十字路アルザスを舞台に繰り返された、ドイツ語とフランス語の攻防。支配国家が替わるたびに民族の主体性、自らの言語と文化を守る苦闘を重ねたアルザス人の歴史。

難人形、侏儒、一寸法師……小さきものへのあこがれとおそれを神話伝説風習のなかにさぐり、日本ならではの「かわいい文化」の起源にせまる名随筆。絢爛たる郡司民俗学への入門書。

★初版1966年 最終版1977年

★初版1965年 最終版1985年

★初版1994年 最終版1999年

★初版1984年 最終版1985年

## 戦禍のアフガニスタン

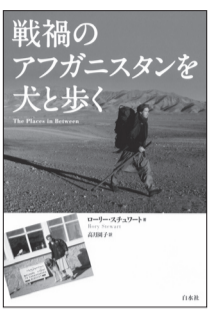
ローリー・スチュート [著] ISBN978-4-560-08062-7

本書は、タリバン政権崩壊直後の冬、英国の元外交官が、アフガン西部の都市ヘラートから首都カブールまでを歩いた三六日間の旅の記録である。

電気もテレビもTシャツもない。「多くの家で唯一の外国テクノロジーはカラシニコフ銃で、世界に通用する唯一のブランドはイスラム教」という村々が続く。次々に現れるタジク、ハザフ、パシュトゥーンなどの諸民族、ゴーストタウンと化した集落の数々、いまや誰も見向きもしない遺跡など、人々との出会いと小さな出来事を通して、現在のアフガニスタンが抱える困難や戦乱の歴史が鮮やかに浮かび上がる。

著者の抑制のきいた静かな語り、旅の途中で見張り役三人が離脱し、用済みになったオオカミよけの番犬を道連れにしてから、徐々に変化していく。耳と尻尾を切り取られ、一度も人に可愛がられたことのないこの大型犬を、著

者たちは自らを「バーブル」と名づけた。不浄の動物、バーブルと異教徒である著者のコンビは、ときに奇異の目で見られながらも、現地の人々の助けを得て、雪深く険しい山岳地帯をカブールめざして進んでいく。それは、十五世紀末、皇帝バーブルがアフガン



者はムガル帝国初代皇帝の名にちなんで「バーブル」と名づけた。不浄の動物、バーブルと異教徒である著者のコンビは、ときに奇異の目で見られながらも、現地の人々の助けを得て、雪深く険しい山岳地帯をカブールめざして進んでいく。それは、十五世紀末、皇帝バーブルがアフガン

## 8人のライフスタイル

名倉幸次郎 [著] ISBN978-4-560-08069-6

社会や自らの生活に不満・ストレスを抱きながらも、仕方なしに忙しい時間を送ってしまう私たちの暮らし。しかし、持続可能な平和な社会をめざして、自然と一体になった新しいライフスタイルを実践している人々もいる。本書では、自らの生き方を探して日本中を旅した著者が、そうした8人を訪れて彼らの暮らしとメッセージを紹介する。

半農的な暮らしを送りながら、ある人は環境問題、地域通貨、芸術活動に携わり、またある人は教育や著作、反戦、植林、農園作りと活動の幅を広げ、みな若者たちの圧倒的な支持を受けている。

具体的には、林良樹、きくちゆみ、設楽清和、塩見直紀、正木高志、菊川慶子、大下充徳、てんつくマンの方々。その誰もが自分の心の声に耳を傾け、自分にとっての「本当の豊かさ・本当の幸せ」を見つめ直した結果いまがあると言う。「出来ることから始める」

## 戦乱の爪痕と、文明の痕跡をたどる旅

者にはムガル帝国初代皇帝の名にちなんで「バーブル」と名づけた。不浄の動物、バーブルと異教徒である著者のコンビは、ときに奇異の目で見られながらも、現地の人々の助けを得て、雪深く険しい山岳地帯をカブールめざして進んでいく。それは、十五世紀末、皇帝バーブルがアフガン

幅を広げ、みな若者たちの圧倒的な支持を受けている。具体的には、林良樹、きくちゆみ、設楽清和、塩見直紀、正木高志、菊川慶子、大下充徳、てんつくマンの方々。その誰もが自分の心の声に耳を傾け、自分にとっての「本当の豊かさ・本当の幸せ」を見つめ直した結果いまがあると言う。「出来ることから始める」

## 楽しいぞ半農生活!

「楽しいってことが大切な」「動けば変わる」——こうした言葉には、一人一人の一步が持続可能な社会の実現にきつとつながってゆく、という確かな思いがある。

著者は26歳。本書は、プロのハンドボール選手としてドイツ滞在中に環境問題を知ったことが大転機となり、自らの生き方探しの旅に出た著者の熱いレポートとも言える。

瑞々しい感性と情熱溢れる文体とで、夢と希望に満ちた8人の提言を伝えており、きつと多くの若者の共感を呼ぶだろう。団塊の世代もウカウカしてはられない!

◇四六判 二二二頁 定価一六八〇円 (本体一六〇〇円) 5月下旬刊

## 建築家ムツリーニ 独裁者が夢見たファシズムの都市

パオロ・ニコロゾ [著] ISBN978-4-560-08060-3

イタリアの都市を歩けば、どんな小さな町にも一つか二つ、巨大な公共建築が広場を睥睨している。モニョメンタルで無機質な合理主義建築が、圧倒的なメッセージを周囲に放ち続けている。これはいったい何なのか。

建築が権力を演出する効果的な装置であることは世界の歴史をひもとけばたちどころに理解できる。自らの政治体制を賛美するモニョメントの設計に嬉々として没入した権力者の事例には事欠かない。なかでも意図的に建築メディアが活用されたのがファシズム期のイタリアである。国民を一体化し、国威を発揚する

## ファシズムの建築思想を詳しく解説

格好の権力装置として建築は映画と並んでもっとも有効に機能した。

ヒトラーの建築政策については、多くの研究があるが、ムツリーニやファシスト政権の建築思想についての研究はこれまであまりなかった。

本書は、ファシズム期イタリアの建築について通史的に語った、最新にしてほぼ唯一といつていい、画期的な著作である。これまで知られることのないムツリーニの建築思想を明らかにし、統領(ドゥーチェ)が石のモニョメントに刻み込んだ、政治思想、信念、そしてユーロピアが詳しく解説されている。独裁者はおのれの権力を緻密に設計・演出する建築家であった。建築史のみならず、イタリア現代史に関心のある読者にとっても刺激的な一冊となるであろう。

◇桑木野幸司訳 四六判 四九四頁 定価四八三〇円 (本体四六〇〇円)

《東京国際ブックフェア2010》のご案内

今年14回目を迎える〈書物復権〉共同復刊は、岩波書店・紀伊國屋書店・勤草書房・東京大学出版会・白水社・法政大学出版局・みすず書房・未来社の8出版社で実施いたします。復刊書は5月下旬より、全国の協力書店店頭にて発売予定です。詳細は公式サイト <http://www.kinokuniya.co.jp/01f/fukken/> をご覧ください。

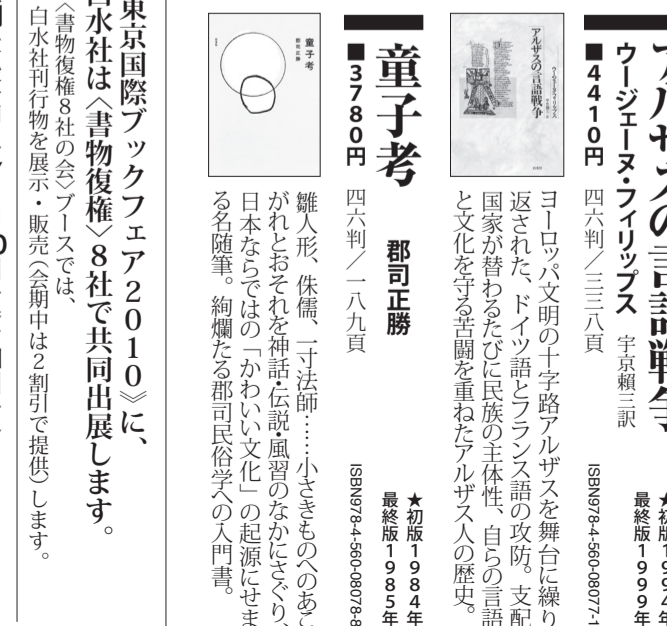
《東京国際ブックフェア2010》に、白水社は〈書物復権〉8社で共同出展します。

◎〈書物復権8社〉の会ブースでは、白水社刊行物を展示・販売(会期中は2割引で提供)します。

会期(一般公開日)▼7月10日(土)、11日(日)

会場▼東京ビッグサイト(東京・有明)

詳細は、東京国際ブックフェア公式サイト <http://www.bookfair.jp/> をご覧ください。無料招待券も、このサイトからお申込みいただけます。招待券を弊社までご請求の方は、同封のハガキにて、お名前・ご住所および「東京国際ブックフェア招待券希望」と明記の上お申込みください。(数に限りがございますのでお早めにお問い合わせいたします。)



★初版1984年 最終版1985年

★初版1994年 最終版1999年

★初版1984年 最終版1985年

「出来ることから始める」

## 楽しいぞ半農生活!

「楽しいってことが大切な」「動けば変わる」——こうした言葉には、一人一人の一步が持続可能な社会の実現にきつとつながってゆく、という確かな思いがある。

著者は26歳。本書は、プロのハンドボール選手としてドイツ滞在中に環境問題を知ったことが大転機となり、自らの生き方探しの旅に出た著者の熱いレポートとも言える。

瑞々しい感性と情熱溢れる文体とで、夢と希望に満ちた8人の提言を伝えており、きつと多くの若者の共感を呼ぶだろう。団塊の世代もウカウカしてはられない!

◇四六判 二二二頁 定価一六八〇円 (本体一六〇〇円) 5月下旬刊

「出来ることから始める」

## 楽しいぞ半農生活!

「楽しいってことが大切な」「動けば変わる」——こうした言葉には、一人一人の一步が持続可能な社会の実現にきつとつながってゆく、という確かな思いがある。

著者は26歳。本書は、プロのハンドボール選手としてドイツ滞在中に環境問題を知ったことが大転機となり、自らの生き方探しの旅に出た著者の熱いレポートとも言える。

瑞々しい感性と情熱溢れる文体とで、夢と希望に満ちた8人の提言を伝えており、きつと多くの若者の共感を呼ぶだろう。団塊の世代もウカウカしてはられない!

◇四六判 二二二頁 定価一六八〇円 (本体一六〇〇円) 5月下旬刊

## 楽しいぞ半農生活!

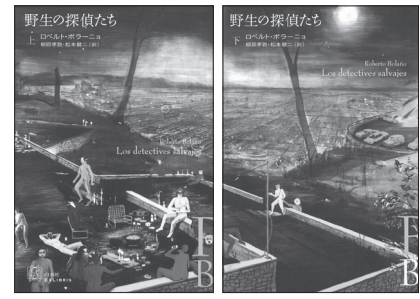
「出来ることから始める」

## 楽しいぞ半農生活!

「出来ることから始める」

「出来ることから始める」





### 旅する詩人たちが描く文学の地図

没後ますます国際的評価の高まるチリの鬼才による、半自伝的傑作小説。  
一九七五年の大晦日、前衛詩グループを率いる若い詩人アルトゥーロ・ベラーノと盟友ウリセス・リマは、一九二〇年代に実在したとされる謎の女流詩人セザレア・ティナーロの足跡を辿ってメキシコ北部の砂漠地帯に旅立つ。だが、ある事件をきっかけに二人は世界各地を放浪することになり、そのおよそ二十年間の旅の行方が、詩人志望の少年の日記(第一部第三部)



かつては「深窓の令嬢」でありながら、どこかの馬の骨とも知らぬ移民の若者と駆け落ちし、長年消息を絶つていたルイズ・アフタリオンは、ある日、夫の忘れ形見ニコラを連れ、姉を頼ってパリに舞い戻る。だが、姉夫婦の冷たい仕打ちに耐えかね、親子はホテル暮らしを決意。やがてその宿代も滞納し、徐々に宿泊先のランクを下げていく。  
金の工面の担当は息子のニコラ、方法はもっぱら無心。親類や友人、また行きずりの誰かから金を借りては、踏み倒していく。決して悪気はないのだが、「貧乏貴族」アフタリオンの親子は、ついつい調子に乗って、分もわきまえず、すぐに浪費してしまうのだ。  
追い詰められたニコラは、ようやく郊外の工場に働き口を見つけたが、厳しい規律や表層的な人間関係に疲れ、たった二週間で突然の社拒否。とうとう母親も精神のバランスを崩し、借金の当ても遂に

### ダメ男小説作家ボーヴの本領発揮!

「建設的」なアプローチは、いわゆる現代口語演劇を再構築する。「……いま演劇は、これまでとはまた異なる方法によって演劇ならではの新しい地平のひとつを切り開いた」と言っている。  
\* \* \* 宮沢章夫  
ソントン・ワイルダーの『わが町』を換骨奪胎して、時報とともに精確に設計した戯曲! 地球の誕生から消滅までをめぐる物語が、団地にくらす少女の日常に重なりあいが描かれてゆく。現代口語演劇の音響的・ミュージカル。第五十四回岸田國士戯曲賞受賞作品。  
◇四六判 二〇六頁 定価二二〇〇円(本体二〇〇〇円)

文明が荒廃し、自然が荒れ狂う、時代不明の「アメリカ」。女は謎の伝染病に罹って、生死の境をさまよひ、全身の毛を抜かれ、丘の上に建つ「隔離小屋」に置き去りにされる。男は大陸を脱出し、海に向こうを目指して兄と旅していたが、足を痛め、兄とはぐれてしまう。ちよとどその時、湖から湧き出した毒ガスが麓の街を襲い、住民や旅人たちは全滅する。男と女は隔離小屋で運命的な出会いをし、危機一髪で難を逃れることができたが、ふたりの行方には、凄絶な旅路が待っていた……。  
ここは本場に「アメリカ」なのだろうか? 人びとの生活様式は中世に逆行し、前途に希望が見出せない者たちが、この地を捨て、海を越えた新天地を目指し、東の海岸へと殺到する。しかし、自然が猛威をふるう大地には、錆びた金属や砕けたコンクリートが散乱し、野蛮な盗賊団が跋扈し、奇妙な宗教にすがる者たちもいる。飢餓と疲労に苛まれる男と女には、つぎつぎと冷酷な試練が襲いかかる。しかし偶然、両親を失った幼い女の子をひきとることで、かすかに未来が開けたかに見えたが……。  
生き延びようとするならば、神に祈ったり、神を呪ったりしている暇はない。ここは、頭と手足を使い、駆け引きをし、すべてを利用し、決断することが掟の世界なのだ。本書は、『死んでいる』で全米批評家協会賞を受賞した鬼才による、「生き延びる」ための問題作だ。  
◇渡辺佐智江訳 四六判 二八〇頁 定価二五二〇円(本体二四〇〇円) 5月下旬刊

### 荒々しくも清冽な世界!



「フリーのおわらない物語」を読むことは、九才の子の脳内を旅することだ。  
アメリカの(すい)んちとヒッピー的な)学校からイギリスに転校してきた少女フリーの日常は、波乱に満ちている。転校生というのはそれだけで口の中で抜けかけている歯のようにグラグラしている身分だ。新しい学校には新しい学校のルールがあるし、何だか納得のいかないじめもある。どこまで本当の友だちになれるか分からない、ちよと競争心が強い同級生との関係もまだ定まらなくて、同じ学年に飛び級してきたいじめられっ子のパメラと仲良くなりたくても、なかなか手を伸ばすことが出来ない。それだけでも充分に忙しいはずなのに、お話を作るのが好きなフリーの頭は、親友の思い出やイソツブ風に教訓が最後に来る自作のおとぎ話、弟のチビ助の言動など雑多な思考で溢れかえっている。この小説の中ではそれがもう、整理されずにだだ漏れの状態で綴られているのだ。

### 子どものころの豊かな世界



「水戸黄門」のフリーのおわらない物語』が可愛くて、お話を作るのが大好きなアメリカの少女がイギリスの小学校に転校して大活躍!  
◆岸本佐知子訳  
◆新書判/306頁  
◆定価1365円(本体1300円)

ニールソン・ペイカーが自分の娘アリスのおしゃべりをそのまま書き取ったかのような、少女の妄想と思考と現実がいつしかまた重なったような不思議な文体がチャームングだ。どこで話がまとまるのかさっぱり分からないフリーのおしゃべりを永遠に聞いていたくなる。私も九才の時はこんなとりのめな話し方をしたものだ。なかなか大人には伝わらなかつたけれど、豊かな世界を生きていたように思う。その世界が自分の中から消えていなくなつたことを、フリーと旅して初めて知った。  
やまさき・まどか=ライター。著書に『乙女日和』、訳書にタオ・リン『イー・イー・イー』。



### 現代口語ラップ演劇!

「ひとつの家、ひとりの少女を宇宙の中に放り出し、無用な思い入れなく、人のあわれを描き出している。……」  
演劇シーンに、ひとつの爆破装置を仕掛けたという意味でも評価できるし、歓迎すべき作品! — 岩松了  
「地球と宇宙に流れた時間と、地上の人間に流れた時間を相対化するという、壮大な遠近法で見せる。それは、ワイルダーの『わが町』の本歌取りとして、充分な詩情を獲得している」  
\* \* \* 永井愛  
「韻を踏んだり、或いはラップというセリフの在り方で、コトバを『ずらし』、さらにそのコトバを発する主体を『ずらし』その『ずれ』から、星の光を絞り出した。……」  
この『ずらす』手法は数学の問題を美しく解いて見せた時の方法に似ている」  
\* \* \* 野田秀樹  
「ヒップホップの方法論を持ちこみ、□□□(クチロロ)というブレイクビーツ・ユニットの音楽も果敢にとりこんだ

「建設的」なアプローチは、いわゆる現代口語演劇を再構築する。「……いま演劇は、これまでとはまた異なる方法によって演劇ならではの新しい地平のひとつを切り開いた」と言っている。  
\* \* \* 宮沢章夫  
ソントン・ワイルダーの『わが町』を換骨奪胎して、時報とともに精確に設計した戯曲! 地球の誕生から消滅までをめぐる物語が、団地にくらす少女の日常に重なりあいが描かれてゆく。現代口語演劇の音響的・ミュージカル。第五十四回岸田國士戯曲賞受賞作品。  
◇四六判 二〇六頁 定価二二〇〇円(本体二〇〇〇円)

### 献上博多織の技と心



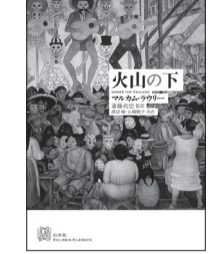
### 一本の帯から語る 伝統工芸の世界

献上博多織は、経糸のみで文様を表す独特な構成美を誇っている。締めることキツキツと絹鳴りの音がして、豪奢で重厚な雰囲気醸し出す。  
著者はこの伝統工芸の世界で二〇〇三年、父善三郎に次いで重要無形文化財保持者(人間国宝)となった。大好評を博したNHKドラマ

マ「博多はたおと」のモデルとしても知られる。  
本書は父の想像を絶する厳しい修行をこら、やがて新しい伝統を築き上げようとする「二職人の魂の記録」(十四代酒井田村右衛門)であり、一本の帯に秘められた数多くの物語が、機音とともに紡ぎだされていく。  
厳格な父が亡くなる直前、突然「何かほしいものはあるか」と聞かれた著者は、「お父さんの手がほしい」と答えた。この一つのエピソードが、伝統工芸を発展・継承させる著者の真摯な姿勢を象徴している。  
機音は腕前の音。その音を聞くだけで、どういう帯を織っているかがわかると著者は言う。本書では芯の芯で習得した機織の手ごたえや身体に響いてくる感触が、強い説得力をもって余すところなく解き明かされていく。  
一本の帯を織りあげるために、蚕の餌となる桑の木を探る。伝統工芸が室内の作業にとどまらない、幅広い自然との調和であることを、本書は教えてくれる。読者は少し誇らしげに「心の帯」を締めることができるだろう。  
◇四六判 二三四頁 カラー図版一頁 定価二九四〇円(本体二八〇〇円)

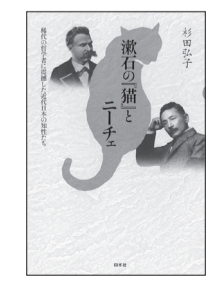
### たちまち重版!

### 世界の作家たちが愛読する20世紀の不滅の傑作



【エクス・リブリス・クラシックス】  
火山の下  
マルカム・ラウリー 作  
斎藤兆史 監訳 渡辺暁、山崎暁子 共訳  
1938年11月の《死者の日》。故郷から遠く離れたメキシコの地で、酒に溺れていく元英国領事の悲喜劇的な一日を、美しくも破滅的な迫真の筆致で描く。●定価 3150円(本体 3000円)

### 朝日新聞・読売新聞に書評掲載! ニーチェ思想の衝撃



漱石の『猫』とニーチェ  
稀代の哲学者に震撼した近代日本の知性たち  
杉田弘子 著  
ニーチェ思想が近代日本の知識人に与えた衝撃を鮮やかに描く力作。「近代」に直面した梶牛、漱石、新渡戸、安倍能成、朔太郎、芥川らの苦悶と自己救済の格闘の様子が浮き彫りにされる。  
●定価 3360円(本体 3200円)

再読再読

山崎まどか  
『フリーのおわらない物語』  
ニールソン・ペイカー



# 「ワインのフランス語」

立花規矩子、立花洋太 [著] 立花峰夫 [監修]

ワインショップ、レストラン、パーティー、ワイナリー研修など、ワインに関するさまざまな場面で役に立つ実践的な会話集です。ワイン留学の手引き、ワイナリー研修に関する手紙・メールの書き方、ワイン用語集(仏和・和仏)も充実していますので、フランスでワイナリー巡りをしたい人、ワイン関係の仕事に従事したい人にも最適。しゃべれたら、もっとおいしい!

◇2色刷 A5判 174頁 定価2730円(本体2600円) 5月下旬刊



ISBN978-4-560-08538-7



# 「フランス夏休み学習号2010」

フランス語の最初歩を復習して秋の仏検5級にチャレンジしたい方にぴったりの練習帳。単語と訳の付いたテキストに、前期の文法のまとめ、やさしい練習と聴き取り問題で、目と耳から文法の整理ができます。無料採点仏検5級模擬試験付き。全国の大学で大好評!

◇B5変型 48頁 定価1300円(本体1238円) 6月上旬刊

## 《ニューエクスプレス》シリーズ新刊

見やすい・わかりやすい・使いやすい!  
会話から文法へ—はじめての入門書◆決定版

### 魅力あふれる東南ヨーロッパの言葉

《ニューエクスプレス》セルビア語・クロアチア語 [CD付]

中島由美、野町素己 [著] ISBN978-4-560-08529-5

◇A5判 149頁 定価2835円(本体2700円)

### 憩いの国の言葉を、文字から学んでみませんか

《ニューエクスプレス》ラオス語 [CD付] 鈴木玲子 [著]

◇A5判 151頁 定価2940円(本体2800円) 5月中旬刊

### 文字の書き方からゆっくり解説

《ニューエクスプレス》アラビア語 [CD付] 竹田敏之 [著]

◇A5判 153頁 定価2520円(本体2400円) 5月下旬刊

- ◎○○語ってどんなことば? → 最初にことばの特徴や歴史をご案内
- ◎文字と発音 → 発音のコツと骨組をやさしく解説
- ◎本文 → 各課4ページ立て全20課。「ここがポイント!」ですっきり納得
- ◎練習問題 → 2課ごとに2ページ。親切「ヒント!」付き
- ◎単語力アップ・表現力アップ → テーマ別単語と表現のコーナー
- ◎単語リスト → 巻末には使用単語をすべて掲載。辞書なしでも勉強できる
- ◎付録CD → 会話と単語、聞き取り練習問題、表現力アップを収録

構成



各巻 A5判



# 「孤独と人生」

アルトゥール・ショーペンハウアー [著]

本書はショーペンハウアーの哲学が、「生活の知恵」として日常生活のなかになにかに活用されるかを、哲学者本人が具体的に記述したものである。

「私は生活の知恵という概念をまったく独特な意味にとる。つまり生活をできるだけ早く、しかも幸福にすぎずでだてと考える。そのための方策を幸福論と名づけてもよい。生活の知恵とは、実は幸福な暮らしかたを教えるものである。」

ゲーテやシェイクスピアなどの引用に富み、楽しく高雅な、厭世的哲学者による「幸福論」。

◆金森誠也訳 新書判 三四六頁 定価一四七〇円(本体一四〇〇円)

# 「わたしたちの音楽史」

フリードリヒ・ヘルツフェルト [著]

「いったい、音楽とはなんだろう? 音楽とは、なにかから成り立っているのか?」——「音楽」と「音」との違いから始めて、西洋音楽の歴史をわかりやすく解説した一冊。主要な作曲家や作品を、社会背景や音楽史の変遷のなかに位置づけつつ、豊富な逸話をまじえて語っている。ヘンデルが上演したオペラの最中に起きた珍事件、ベートーヴェンの感情の激しさ、文豪ゲーテのシューベルトとメンデルスゾーンに対する扱いの違い……「平均律」や「オクターヴ」といった音楽用語の意味、「オーケストラ」や「弦楽四重奏」のはじまりなども、コンパクトにまとめられている。

ロングセラーを、固有名詞などの表記を刷新してUブックス化。クラシック音楽の入門者にも手頃で、読み物としても楽しい作品。◇渡辺護訳 各新書判 上巻二四二頁/下巻二七八頁 各定価一三六五円(各本体一三〇〇円)

# 「医療制度改革」

ブルノ・パリエ [著]

医療制度改革が叫ばれて久しい。そして今、低成長下で超高齢化社会を乗りこえるためには、喫緊の課題である。本書は、医療制度の現状を理解し、改革実現への展望をひらくために必要なことを明示してくれる。具体的には、先進各国の医療制度の歴史や各制度に見られる問題点、改革の実例である。そのうえで、改革にあたって何を指し、そのためには何を捨てなければならないのかを問う。これは、相互矛盾する四つの目的を調整するというきわめて難しい舵取りなのである。元厚生労働事務次官、近藤純五郎氏による「解説」では、この相互矛盾をめぐる日本の「憂うつな選択」と、今後の対処について述べられている。

◇近藤純五郎監修 林昌宏訳 新書判 一五四頁 定価一〇三〇円(本体一〇五〇円) 5月中旬刊

# 「100語でわかるワイン」

ジェラルド・マルジヨン [著]

「カシエール」「瓶詰め病」「地球生物学」「四十五秒」……? 著者は、モノコのカリスマ・シェフ、アラン・デュカス率いるグループのソムリエ長。彼が選んだ一〇〇語は、基本的用語から、ひと味違うものも含め、かなり専門的なものまでをカバーして、用語集としても、また読み物としても楽しめる。扱っているのも、ワインの造り方、取り扱い方、取引や歴史、味わい方など、多岐にわたっており、それらをきわめて分かりやすく解説している。

期待はずれのワインに出会ったときの「落胆」までを項目に挙げているあたり、蘊蓄を傾けるためではなく、真にワインを楽しむためのすぐれた手引書だ。

◇守谷てるみ訳 新書判 一五〇頁 定価一〇三〇円(本体一〇五〇円) 5月中旬刊

白水Uブックス

文庫クセジュ

## 〈白水Uブックスフェア〉のお知らせ

旅、紀行、散歩、そして徘徊…。とにかく何処かに行きたくなる?

白水Uブックスフェアを、全国書店で順次開催いたします。今年のテーマは「旅」。プラハ、インド、チベット……日常を離れて、「とにかく何処かに行きたくなる」一冊を集めました。詳しくは白水社ホームページをご覧ください。

- 【ラインナップ】
- タブッキ『インド夜想曲』
  - カフカ『失踪者』
  - 須賀敦子『トリエステの坂道』
  - 千野栄一『ビールと古本のプラハ』
  - 堀江敏幸『郊外へ』
  - ……など
- 横井三歩さんのイラストによるイメージキャラクター「Uブックスを持ったユニコーン」が目印です!



## 本の十字路

三月公開の『アイガー北壁』は登頂も下山もしない山岳映画だが、初登攀争いにまつわる史実に基づいているのだから仕方がない。この顛末は、『チベットの七年』の著者ハインリヒ・ハラーがまとめた『北壁登攀史』『白蜘蛛』に詳しい。ハラー自身、アイガー北壁初登攀者の一人である。映画を観ながら、これを似た話をどこかで読んだ気がしていたが、あとでポップ・ラングラー『北壁の死闘』であることに気がついた。それもそのはず、同じ実話をベースにした、手に汗握る山岳冒険小説だ。もうひとつあった。羽根田治『山の遭難』にある、谷川岳一ノ倉沢衝立岩の墜死・宙吊り事故(一九六〇年)だ。遺体収容のため自衛隊が三〇〇発もの銃弾を撃ち込んでザイルを切断したのは別として、岩壁で宙吊りのままという痛ましさは映画と同じ。(クロボト)

【お知らせ】今号から新連載「ことば紀行」が始まります。様々な言語について、各言語の専門家に語っていただくリレーエッセイです。どうぞご期待ください。

【お願い】住所表記が変更になりましたら、お名前、新住所・旧住所、お届けいたしております本紙のお客さまコードをお知らせください。

二つの異なる「火山」を這い上がり、這い下りてきた今、ようやく後ろを振り返って初めてその険しさにそののびている(しかもそのうちのひとつは、結果的に双子の山だ)。奇しくも一方の山はもう片方へオマージュを捧げている。「火山の下」と「野生の探偵たち」は、書かれた時代こそ半世紀近く違うが、どちらも物語の舞台はメキシコ。主人公は片や英国人、

片やチリ人、ともに異邦人である。二人とも若い時分に詩人を志すが挫折、半自伝的な色合いが強く、中にはそれぞれの偏愛する作家や作品が思わぬところに散りばめられている。この数ヶ月間は、二つの小説の幸福な結びつきを感じながら、ある時はアル中患者の気分を味わい、またある時は登場人物たちを追って見たことのない土地を旅するアームチェアトラベラーとなるまたとない日々だった。

## ことば紀行

第1回 今岡良子  
モンゴル語

- 【主な使用地域】モンゴル国、中国内モンゴル自治区
- 【話者数】500～600万人
- 【使用文字】キリル文字、モンゴル文字
- 【あいつつてみよう】 Сайн байна уу? (こんにちは) サインバイノー?



何か新しいことを始めたい。4月は語学の入門書がよく売れるという。その後、なかなか続かないのは、自分自身が変わらないからだ。つまり、英語を勉強してきたように、真面目に取り組んでしまう。いい高校、いい大学に行き、いいところに就職するという、自分を取り巻く身近な人たちの期待とある種の脅迫の中で正しい英語を勉強してきたのではないか。新しい外国語は、人生を楽しむようにかわってみよう。

昨年の夏、モンゴルへ行ったAさん、62歳。高校に進学する機会がなく、学校で受けた英語教育に記憶がない。しかし、2週間の滞在期間中、通訳をつけることもなく、モンゴル人のホストファミリーと楽しく過ごした。

Aさんは、言葉よりも先に、身振り、体全体が動き、思いを伝えようとする。「ありがとう」を言う前に、満面の笑みを浮かべ

る。言葉で伝える時は、モンゴル語でも、大阪弁でも、とにかく大きな声を発して注意をひく。発音の難しい単語は、相手に日本語を教えてしまう。家庭菜園を耕したり、陶芸をしたり、日本料理を作ったり。同じ動作をしながら、幼い子どもが言葉を吸収していくように覚えていく。2週間であんなく日常会話をつかめるようになった。

う」「ごめんなさい」は最初に習うが、モンゴル人は感謝や謝罪の気持ちがあっても、言葉で表現しない。相互扶助の社会では、口先よりも、行動が重視されるからだ。そして、学生自身に生活経験が乏しいため、ホームステイ、1日目に自分と家族の紹介をすると、翌日から話すネタがない。自己嫌悪に陥り、話せなくなり、3泊のホームステイを2泊で切り上げた。

## 間違えてもいい

同じ頃、モンゴル語を専攻する学生が、ホームステイ先で言葉の壁にぶつかっていた。まず聞き取れない。教室で聞くネイティブの発音は、コントラストがはっきりしてわかりやすい。しかし、生活者の発音は、グラデーションのような多様さがある。年代によって、選ぶ言葉、話し方が違う。次に、覚えた会話をスラリと口にしても、返事がなく、会話が途切れてしまう。「ありがと

正しいにこだわると、相手の投げかけてくる多様性に適用できないし、間違ったらいけないと思うと、恥ずかしくて言葉を外に出すことができなくなる。そこは、相手に対してストライクゾーンを広げて、自分に対しても寛容でいい。失敗しても、間違えても、人生にかわりなし。4月に入門書を買った方、そんな気楽な気持ちで、新しい外国語を続けてみてはいかがでしょう。

(大阪大学世界言語研究センター准教授)